

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4年 11月 28日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3474100298		
法人名	尾道市		
事業所名	公立みつぎ総合病院グループホーム「かえで」		
所在地	広島県尾道市御調町高尾1348番地6 (電話) 0848-76-2569		
自己評価作成日	令和4年 11月 2日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3474100298-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年11月21日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

公立みつぎ総合病院グループホーム「かえで」では、入居者が住み慣れた地域で家庭的な環境のもと生活しています。母体病院や総合施設の他部署と協力して包括的な医療提供体制が出来ています。地域の行事への参加などは、コロナ感染防止の為出来ていませんが、図書館への作品展示や原爆慰霊碑へ千羽鶴献納等の限られた中で、地域と継続した関係性を続けています。また総合施設や「かえで」での研修を受講し、ケアの質向上のため、職員一人ひとりが自己研鑽に励んでいます。心身機能・生活機能の維持向上を目指し、基本理念に沿ったケアの実践を重視した運営を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所理念をもとに、年間目標、個人目標を立て毎日のケアに繋げている。毎日のケアの中で、気づきや意見を細かく記録する事で、全職員が情報共通し、同じ思いで日々ケアに取り組んでいる。「私の姿シート」を毎年改めて担当者が記入し、全職員が気づきを書き加え、多職種で情報共有しプランに反映させるなど、利用者・家族の思いに寄り添う支援をしている。食事は手作りで畑で収穫した野菜や季節の食材で利用者と職員と一緒に準備から後片付けまで出来る事を役割として五感が楽しめる支援をしている。コロナ禍で地域交流が困難な中、趣味や生活リハビリを活かした、図書館展示物の作品作りや千羽鶴の献納など、継続的にしている。医療面は、母体総合病院医師の定期的な診療や看護師による24時間医療提供体制を整えている。

自己評価	外部評価	項目(1棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎日、朝礼にて掲示してある病院の基本理念・「かえで」の理念を唱和し実践できるようにしている。また、年度初めには、理念の中の言葉を深く掘り下げユニット単位での目標を立てている、この目標を達成するための個人目標を各ユニットに掲示し毎月評価している。	法人理念、グループホーム「かえで」理念をもとに年度初めに理念の中からより実践に繋げるため、事業所理念をユニットごとに立て共有し、職員も達成を目指すため個人目標を立て、各フロアーに掲示し意識づけ毎日のケアに取り組んでいる。毎月個々に振り返り、目標に向け実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス感染防止の為、利用者の地域行事への参加は控えている。原爆慰霊碑への千羽鶴献納、図書館での作品展示などを通じて地域と継続した関係を築けるようにしている。	生活リハビリに繋がる、図書館展示品の木目込みの絵、書道、編み物、ちぎり絵の作品作りや千羽鶴の献納など地域の住民との交流に取り組んでいる。以前は地域のとんど祭りや近くのスーパーに買い物に出かけていたが現在はしていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、実施する機会がなかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	概ね2ヵ月に1回の運営推進会議を実施していたが、新型コロナウイルス感染防止の為書面会議とし資料を配布している。	地域住民代表、駐在所警察官、行政関係者、地域包括支援センター職員、家族代表などに状況報告、行事・研修報告など資料を送付し、書面上の会議を行い、理解、協力が得られるよう努めている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議への参加を依頼しているが新型コロナウイルス感染防止のため会議の開催は見送っている。会議資料を配布し「かえで」の運営や取組みを伝えている。	市担当者との関係は総合施設事務が対応して信頼関係の構築に努めている。事業所は毎月のケアの質の向上会議で意見交換し、市福祉課からの相談など取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(1棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての研修を実施し知識の向上に努めている。また、ケアの質向上委員会にて身体拘束について話し合っている。 認知症高齢者の行動を見守りながら寄り添う支援を実践している。	研修や毎月のケアの質の向上委員会を通じて知識の向上に努めている。利用者の行動や言動を正しく理解し、言葉掛けや見守りにて身体拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待の防止についての研修を実施し知識の向上に努めている。また、認知症の研修会に参加する事で正しい認知症ケアを実践できるようにし、職員間で声をかけあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在制度を使っている人は居ないが、制度や権利擁護についても、総合施設全体での研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に説明を行い理解を得て契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時に苦情に関する施設相談窓口や外部機関への相談等の説明を行っている。また満足度調査を実施し、職員間で改善するための検討を行い、その結果を家族に配布している。現在新型コロナウイルス感染防止の為面会制限があり、家族には常日頃より電話連絡をとり本人の状態や要望を確認している。	担当職員による電話連絡や写真付の便りの中に日頃の様子、コメントを添えて送付している。年1回満足度調査アンケートを実施し、意見や要望を聞く機会を設けている。家族意見を検討した結果、11月末ごろ近隣ではあるが外出支援を行う予定である。	

自己評価	外部評価	項目(1棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	事前に職員から意見を聞き月一度のミーティングで話し合っている。また、総合施設内の経営・業務改善会議に参加しスタッフ間で情報共有している。	毎日のケアの中で気づきや変化の意見を意見ノートやミーティングで情報共有している。管理者との面談で個人目標の達成感や意見を聞く機会を設け、勤務体制の提案などあり、検討結果改善に繋がり、業務内容がスムーズに働きやすい環境整備に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	自己評価シートに個人目標や達成状況、経験年数に応じた項目にて自己評価してもらっている。年に3回管理者と個別に面談をおこない意見交換の機会を設け、努力・実績などを評価している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	段階別研修（新人研修・中堅研修）、病院の全体研修、総合施設全体研修、「かえで」研修など、毎月の研修計画を立て参加している。認知症介護実践者研修・リーダー研修への参加も支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	認知症対応型サービス事業開設者研修を受け入れていたが現在コロナウイルス感染防止のため受け入れていない。施設外の研修に参加した際や他施設への面談を利用して他施設との情報共有を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前より情報収集と事前面談を行い、本人の困りごとなどを聞いている。環境が変わる事への不安等が軽減するように話を聞き安心できる様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(1棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に家族と面談を行っている。「かえで」内の見学は新型コロナウイルス感染防止のため現在は行っていないが、希望に応じて動画や写真などを見ていただき対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族の必要としている支援の在り方について多職種で話し合い、他のサービス資源が必要な際には照会を行うなどニーズに合った対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者に寄り添い、喜怒哀楽を分かち合えるように関わっている。生活の中で利用者のできることに目を向け、家事などを一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日常の出来事を家族に伝え、家族からは昔の生活習慣や様子を聞き、お互いに話し合いながら対応を検討している。電話での連絡時には、本人も交えて話すこともある。家族の関わりに感謝し、家族の思いや気づきをケアに活かせるように検討している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	新型コロナウイルス感染防止のため2ヵ月おきに窓越しの面会を実施している。馴染みの人と電話や手紙でのやり取りを通じて関係が継続できるように支援している。	施設内他事業所内のなじみの人との交流がある。面会制限の中で窓越し面会や電話やスマートフォンを利用した会話、お礼状の手紙のやりとり、馴染みの散髪屋との繋がりなど、出来る範囲内で関係の継続に努めている。	

自己評価	外部評価	項目(1棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係性を把握し、孤立しないよう、活動への参加や日常のくつろげる場所などを配慮している。状況に応じて職員が介入し会話を繋げられるように関わっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	新型コロナ感染防止の為現在は行えていないが、以前は総合施設内の施設に住み替えされた利用者へ面会に行ったりしていた。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成時には必ず本人・家族に意向を尋ねケアプランに反映させている。意向を伝えるにくい利用者に対し日頃から言動の背景にある心理の理解に努めている。利用者一人ひとりの「私の姿シート」を職員全員で記入して、申し送りやミーティングなどで情報を共有している。	「私の姿シート」を使用し、担当職員が思いや意向を把握し、全職員が日頃のケアの中で気づきなど記入し、身近な経過にも気づく事ができ、ケアプランの反映に活かしている。思いの表出の困難な利用者は家族に暮らしの情報、日頃の様子や表情で思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に生活歴や昔の暮らし、好みなどの情報を収集しまとめている。入居後も本人や家族から情報の収集を継続している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者の1日の様子を細かく記録し本人の過ごし方を職員間で把握し情報を共有している。気づきがあれば申し送りやミーティングなどを活用し情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(1棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>毎月モニタリングを行い、ケアプラン作成時には、本人・家族の要望を聞き、リハビリスタッフ・歯科衛生士と連携し情報を集めアセスメントを行っている。併せて各ユニットの職員全員で「私の姿シート」を記入し、ケアプランに反映させている。</p>	<p>「私の姿シート」「ひもときシート」で利用者の思いや意向を把握し、多職種の意見や情報、生活を通して利用者の出来る事、出来そうな事を生活リハビリ目標にしたケアプランを作成している。毎月モニタリングを行い、アイデアや提案が活かされた、現状に即したケアプランを作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>利用者の1日の様子を、いつ、どのようにと分かるように細かく記録し、ケアのヒントや気づきなど本人の言葉をそのまま記録に残している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人・家族の要望に応じ医師の指示にてリハビリセンターを利用している。また、音楽療法の実施や、歯科医師・歯科衛生士による口腔のチェック、リハビリスタッフと共同し生活機能向上のためのアセスメントを実施し課題解決に取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>新型コロナウイルス感染防止のため現在は地域に出かけてはいないが、地域の図書館に展示する作品を作ったり、原爆慰霊碑に献納する千羽鶴を折るなどの活動を「かえで」内で行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時に当事業所の母体病院をかかりつけ医とする同意を得ている。内科・精神科・歯科・皮膚科の医師による定期的な訪問診察、必要時の通院体制を整えている。受診の経緯や結果を家族に報告している。</p>	<p>契約時にかかりつけ医の説明と変更の同意を得ている。定期的に精神科、内科、皮膚科、歯科などの訪問診療、特別養護老人ホームの看護師の対応もあり、医療との連携体制を築いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	総合施設内の事業所や診療所の看護師と24時間連絡が取れる体制を整えている。また、訪問看護ステーションと医療連携体制について契約を結んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体病院のため、入院時には病院職員に対し情報交換や相談が行える体制が整っている。 病棟スタッフや病院の相談員・リハビリスタッフと内線で情報共有や相談を行い、退院許可が出ると直ちに受け入れ体制を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	日頃から利用者の状態を家族に伝えており、今後の考えられる状態も説明している。重度化した場合は、職員は医師の指示を受けながら家族の気持ちに寄り添い安心した支援が出来る様に取り組んでいる。	重度化した場合、家族に医師からの説明や今後の方針や希望を聞き事業所で出来る最善の寄り添う支援をしている。看取りはしていないが、コロナ禍で特別養護老人ホームの受け入れが困難な中で、この度初めて終末期ケアを行い24時間医療連携体制により最期を穏やかに迎える支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時の対応をマニュアル化し、研修を実施している。また、総合施設全体研修で救命処置の研修を毎年行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	総合施設全体での避難訓練、「かえで」研修会を実施し、自然災害に備え、職員が災害時にどう行動するか話し合い、備蓄物や避難経路の確認を行っている。	敷地内他施設全体で年2回避難訓練を実施している。事業所の研修では災害時対応の理解、マニュアルの周知徹底、具体的な事例演習で避難経路の確認をしている。災害時に備えて、食料品(3日分)毛布(30人分)発電機など整備している。	

自己評価	外部評価	項目(1棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	接遇の研修会を実施し言葉遣いや対応に配慮している。毎月接遇目標をたてモニタリングをしている。申し送りなど声の大きさや場所に配慮している。	接遇委員会の研修や毎月ユニットごとに接遇目標を立て、モニタリングをしている。声のトーンや場所など特定しない声掛けに配慮し、人としての尊厳やプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者に寄り添う事で、日常の言動を把握し意思表示や自己決定がしやすいように声かけや選択肢の提示など行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者一人ひとりのペースに合わせ、意向に合わせるように支援している。また、職員の意識づけとして「かえで」理念に沿ったものであるように日頃から声をかけ合っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	今まで使用していた化粧品の使用など、本人の好みや大切にしてきた習慣に応じた身だしなみを支援し、家族とも連絡を取り合い、その人の好みの物を準備してもらうように働きかけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	「かえで」で種まきや、手入れを一緒に行い収穫した野菜を使い利用者と職員と一緒に献立を決め準備をしている。季節の料理や誕生日には好きなものを作ってお祝いしている。利用者一人ひとりのできることを支援し、準備から片づけまでを一緒に行っている。	冷蔵庫にある食材や畑で収穫した野菜、施設内のケアハウスからの食材のおすそ分けを使つての献立を立て、利用者と一緒に行う。季節の野菜や果物など目で見て味わっている。誕生日には好みの物やおやつにはどら焼きなど、食を楽しむ支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目(1棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの食事は把握できており本人の状態に合わせて食べ物や飲み物を提供している。嚥下困難な人にはS Tの評価を基に食形態の変更や増粘剤を使用している。状態によっては個別に好みのものを提供し、体力の維持及び、摂取量の低下を防いでいる。月1回、管理栄養士から助言や指導を受けている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後口腔ケアを実施し、個人の能力に応じ支援している。定期的に歯科医師・歯科衛生士の訪問診療や口腔ケアをおこない、口腔に関する相談がしやすい体制が整っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄の支援が必要な利用者は、サインや間隔を見ながら声をかけている。個々の状況に合わせてオムツの種類や使い方を検討し、できるだけ布パンツで過ごせる様に支援している。</p>	<p>個々の排泄表や行動や表情を把握し、トイレでの排泄に繋げている。トイレは居室に近い3か所に設置し、トイレ内に利用者が自分でパット交換が出来るよう、衛生用品や汚物入れを設置している。朝、乳製品を用意し、自然排便に繋げている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>日常的に水分摂取に努め、食物繊維や乳製品の摂取などの工夫をしている。コロナ禍であり、範囲は限定的であるが、施設周囲の散歩を行うなど、運動する機会を設けている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>一人ひとりのタイミングを図りながら入浴できるように支援している。利用者のペースに合わせた時間や介助法で支援している。</p>	<p>基本週2回以上であるが、利用者の体調や気分により柔軟に対応している。浴室は手すり、シャワーチェア、すべり止め、踏み台など安全面やゆっくりと入浴出来るよう設置している。足浴や季節にはゆず湯を用意し、入浴を楽しむ支援をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>本人が好まれる場所で休息したり、 個人の状態に合わせた休息時間 をとれるよう支援している。今ま での習慣を継続できるよう就寝時 間や照明など一人ひとりの時間 に合わせた声掛けを行っている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>利用者に処方してある薬の記録 は一覧できるようにファイリング している。処方に変更があった 時は、心身の状態の観察と記録 を行い介護職員、医師、看護 師との連携に努めている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>役割ができて利用するには、 継続できるように支援し、意思 の表現が困難な利用者には日頃 の言動から好きな事に参加出来 るように支援している。また、 入居前に利用していたサービス (リハビリセンター)を引き続 き利用する事で人間関係や楽し みが継続出来るよう支援してい る。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。</p>	<p>現在、新型コロナウイルス感染 拡大防止の為外出の支援は行 えていない。気分転換に施設周 囲の散歩を行っている。</p>	<p>天気の良い日には気分転換に 施設内周辺の散歩や畑仕事、 苗の植え付け、草取り、収穫 など外気浴や季節を感じる支 援をしている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>お金の管理が困難な利用者 に対して職員が関わっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(1棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>利用者が家族に電話をしたいとの希望があった時、手紙や贈り物があった際にはお礼の電話を本人からかけられるよう支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>明るすぎず、暗すぎず照明が刺激にならないように配慮している。また、大きな音や光の刺激も極力少なくなるように調整している。季節を感じられるように、花を生けその時期に応じた飾り付けを工夫している。</p>	<p>自然の採光が入るようカーテンを開け、フローアから外の風景が眺められる。利用者の作品、華道クラブの生け花、掃除は拭き掃除、掃き掃除など利用者の個々の役割としている。週1回音楽療法士の来訪でソファー席で寛ぎ、楽器演奏や歌を唄うなど思い思いのペースで過ごしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングや廊下など各々が安心して過ごせる様に家具やソファの配置を工夫し、くつろげる場所がある。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居前の面談時に、本人の好みのもので使い慣れたものを持ってきてもらうように説明している。入居時にそれらのものは、家族や本人の手により配置している。</p>	<p>居室はエアコン、カーテン、照明、押入れ、洗面台が設置してある。ユニットには畳の居室5部屋、フローリングの居室4部屋があり、畳部屋に生活機能に合わせベットを設置している利用者もいる。好みの物や使い慣れた鏡台、仏壇、人形、布団など、家族と一緒に居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>目当ての場所が分かるように表札を設置している。中庭にベンチを置き花壇や菜園を作っている。洗濯の物干し台は利用者に応じた高さのものを利用している。</p>		

V アウトカム項目(1棟) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(2棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎日、朝礼にて掲示してある病院の基本理念・「かえで」の理念を唱和し実践できるようにしている。また、年度初めには、理念の中の言葉を深く掘り下げユニット単位での目標を立てている、この目標を達成するための個人目標を各ユニットに掲示し毎月評価している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス感染防止の為、利用者の地域行事への参加は控えている。原爆慰霊碑への千羽鶴献納、図書館での作品展示などを通じて地域と継続した関係を築けるようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、実施する機会がなかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	概ね2カ月に1回の運営推進会議を実施していたが、新型コロナウイルス感染防止の為書面会議とし資料を配布している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議への参加を依頼しているが新型コロナウイルス感染防止のため会議の開催は見送っている。会議資料を配布し「かえで」の運営や取組みを伝えている。		

自己評価	外部評価	項目(2棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束についての研修を実施し知識の向上に努めている。また、ケアの質向上委員会にて身体拘束について話し合っている。</p> <p>認知症高齢者の行動を見守りながら寄り添う支援を実践している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待の防止についての研修を実施し知識の向上に努めている。また、認知症の研修会に参加する事で正しい認知症ケアを実践できるようにし、職員間で声をかけあっている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現在制度を使っている人は居ないが、制度や権利擁護についても、総合施設全体での研修を実施している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に説明を行い理解を得て契約を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>契約時に苦情に関する施設相談窓口や外部機関への相談等の説明を行っている。また満足度調査を実施し、職員間で改善するための検討を行い、その結果を家族に配布している。現在新型コロナウイルス感染防止の為面会制限があり、家族には常日頃より電話連絡をとり本人の状態や要望を確認している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	事前に職員から意見を聞き月一度のミーティングで話し合っている。また、総合施設内の経営・業務改善会議に参加しスタッフ間で情報共有している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	自己評価シートに個人目標や達成状況、経験年数に応じた項目にて自己評価してもらっている。年に3回管理者と個別に面談をおこない意見交換の機会を設け、努力・実績などを評価している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	段階別研修（新人研修・中堅研修）、病院の全体研修、総合施設全体研修、「かえで」研修など、毎月の研修計画を立て参加している。認知症介護実践者研修・リーダー研修への参加も支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	認知症対応型サービス事業開設者研修を受け入れていたが現在コロナウイルス感染防止のため受け入れていない。施設外の研修に参加した際や他施設への面談を利用して他施設との情報共有を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前より情報収集と事前面談を行い、本人の困りごとなどを聞いている。環境が変わる事への不安等が軽減するように話を聞き安心できる様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に家族と面談を行っている。「かえで」内の見学は新型コロナウイルス感染防止のため現在は行っていないが、希望に応じて動画や写真などを見ていただき対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族の必要としている支援の在り方について多職種で話し合い、他のサービス資源が必要な際には照会を行うなどニーズに合った対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者に寄り添い、喜怒哀楽を分かち合えるように関わっている。生活の中で利用者のできることに目を向け、家事などを一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日常の出来事を家族に伝え、家族からは昔の生活習慣や様子を聞き、お互いに話し合いながら対応を検討している。電話での連絡時には、本人も交えて話すこともある。家族の関わりに感謝し、家族の思いや気づきをケアに活かせるように検討している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	新型コロナウイルス感染防止のため2ヵ月おきに窓越しの面会を実施している。馴染みの人と電話や手紙でのやり取りを通じて関係が継続できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目(2棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係性を把握し、孤立しないよう、活動への参加や日常のくつろげる場所などを配慮している。状況に応じて職員が介入し会話を繋げられるように関わっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	新型コロナ感染防止の為現在は行えていないが、以前は総合施設内の施設に住み替えされた利用者へ面会に行ったりしていた。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成時には必ず本人・家族に意向を尋ねケアプランに反映させている。意向を伝えるに利用者に対し日頃から言動の背景にある心理の理解に努めている。利用者一人ひとりの「私の姿シート」を職員全員で記入して、申し送りやミーティングなどで情報を共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に生活歴や昔の暮らし、好みなどの情報を収集しまとめている。入居後も本人や家族から情報の収集を継続している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者の1日の様子を細かく記録し本人の過ごし方を職員間で把握し情報を共有している。気づきがあれば申し送りやミーティングなどを活用し情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(2棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月モニタリングを行い、ケアプラン作成時には、本人・家族の要望を聞き、リハビリスタッフ・歯科衛生士と連携し情報を集めアセスメントを行っている。併せて各ユニットの職員全員で「私の姿シート」を記入し、ケアプランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者の1日の様子を、いつ、どのようにと分かるように細かく記録し、ケアのヒントや気づきなど本人の言葉をそのまま記録に残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人・家族の要望に応じ医師の指示にてリハビリセンターを利用している。また、音楽療法の実施や、歯科医師・歯科衛生士による口腔のチェック、リハビリスタッフと共同し生活機能向上のためのアセスメントを実施し課題解決に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	新型コロナウイルス感染防止のため現在は地域に出かけてはいないが、地域の図書館に展示する作品を作ったり、原爆慰霊碑に献納する千羽鶴を折るなどの活動を「かえで」内で行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に当事業所の母体病院をかかりつけ医とする同意を得ている。内科・精神科・歯科・皮膚科の医師による定期的な訪問診察、必要時の通院体制を整えている。受診の経緯や結果を家族に報告している。		

自己評価	外部評価	項目(2棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	総合施設内の事業所や診療所の看護師と24時間連絡が取れる体制を整えている。また、訪問看護ステーションと医療連携体制について契約を結んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体病院のため、入院時には病院職員に対し情報交換や相談が行える体制が整っている。 病棟スタッフや病院の相談員・リハビリスタッフと内線で情報共有や相談を行い、退院許可が出ると直ちに受け入れ体制を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	日頃から利用者の状態を家族に伝えており、今後の考えられる状態も説明している。重度化した場合は、職員は医師の指示を受けながら家族の気持ちに寄り添い安心した支援が出来る様に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時の対応をマニュアル化し、研修を実施している。また、総合施設全体研修で救命処置の研修を毎年行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	総合施設全体での避難訓練、「かえで」研修会を実施し、自然災害に備え、職員が災害時にどう行動するか話し合い、備蓄物や避難経路の確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(2棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	接遇の研修会を実施し言葉遣いや対応に配慮している。毎月接遇目標をたてモニタリングをしている。申し送りなど声の大きさや場所に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者に寄り添う事で、日常の言動を把握し意思表示や自己決定がしやすいように声かけや選択肢の提示など行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者一人ひとりのペースに合わせ、意向に合わせるように支援している。また、職員の意識づけとして「かえで」理念に沿ったものであるように日頃から声をかけ合っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	今まで使用していた化粧品の使用など、本人の好みや大切にしてきた習慣に応じた身だしなみを支援し、家族とも連絡を取り合い、その人の好みの物を準備してもらうように働きかけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	「かえで」で種まきや、手入れを一緒に行い収穫した野菜を使い利用者と職員と一緒に献立を決め準備をしている。季節の料理や誕生日には好きなものを作ってお祝いしている。利用者一人ひとりのできることを支援し、準備から片づけまでを一緒に行っている。		

自己評価	外部評価	項目(2棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの食事量は把握できており本人の状態に合わせて食べ物や飲み物を提供している。嚥下困難な人にはS Tの評価を基に食形態の変更や増粘剤を使用している。状態によっては個別に好みのものを提供し、体力の維持及び、摂取量の低下を防いでいる。月1回、管理栄養士から助言や指導を受けている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後口腔ケアを実施し、個人の能力に応じ支援している。定期的に歯科医師・歯科衛生士の訪問診療や口腔ケアをおこない、口腔に関する相談がしやすい体制が整っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄の支援が必要な利用者は、サインや間隔を見ながら声をかけている。個々の状況に合わせてオムツの種類や使い方を検討し、できるだけ布パンツで過ごせる様に支援している。また、自分でパット交換ができる利用者には、手に取りやすい場所にパットを準備し自立を促している。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>日常的に水分摂取に努め、食物繊維や乳製品の摂取などの工夫をしている。コロナ禍であり、範囲は限定的であるが、施設周囲の散歩を行うなど、運動する機会を設けている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>一人ひとりのタイミングを図りながら入浴できるように支援している。利用者のペースに合わせた時間や介助法で支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(2棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>本人が好まれる場所で休息したり、 個人の状態に合わせた休息時間 をとれるよう支援している。今ま での習慣を継続できるように就寝 時間や照明など一人ひとりの時 間に合わせた声掛けを行っている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている。</p>	<p>利用者に処方してある薬の記録は 一覧できるようにファイリングし ている。処方に変更があった時は 、心身の状態の観察と記録を行 い介護職員、医師、看護師との 連携に努めている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>役割ができて利用するには、継 続できるように支援し、意思の表 現が困難な利用者には日頃の言 動から好きな事に参加出来るよ うに支援している。また、入居 前に利用していたサービス(リ ハビリセンター)を引き続き利 用する事で人間関係や楽しみが 継続出来るよう支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。</p>	<p>現在、新型コロナウイルス感染 拡大防止の為外出の支援は行 えていない。気分転換に施設周 囲の散歩を行っている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>お金の管理が困難な利用者に対 して職員が関わっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2棟)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>利用者が家族に電話をしたいとの希望があった時、手紙や贈り物があった際にはお礼の電話を本人からかけられるよう支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>明るすぎず、暗すぎず照明が刺激にならないように配慮している。また、大きな音や光の刺激も極力少なくなるように調整している。季節を感じられるように、花を生けその時期に応じた飾り付けを工夫している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングや廊下など各々が安心して過ごせる様に家具やソファの配置を工夫し、くつろげる場所がある。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居前の面談時に、本人の好みのものや使い慣れたものを持ってきてもらうように説明している。入居時にそれらのものは、家族や本人の手により配置している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>目当ての場所が分かるように表札を設置している。中庭にベンチを置き花壇や菜園を作っている。洗濯の物干し台は利用者に応じた高さのものを利用している。</p>		

V アウトカム項目(2棟) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 公立みつぎ総合病院グループホーム「かえで」

作成日 令和4年12月16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議が一方的な資料配布になり、意見をもらえていない。	運営推進会議についての意見交換ができる。	資料配布時に意見交換出来る様に、返信用の書面を同封する。	1年間
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。